

産地戦略

実施期間 令和5年度

実施主体 三好地区環境負荷低減技術普及推進協議会
 都道府県 徳島県
 対象地域 三好市、東みよし町
 対象品目 夏秋トマト



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類 該当するものに●を付してください。

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

山間地域の夏秋トマトは、主に夏秋の温暖多湿な時期に栽培しているため病害虫の発生が多くなっています。特に、コナジラミ類の被害については、寄生し排泄物を出すことによる「すす病」の発生によって商品価値を低下させているとともに、吸汁によるウイルス病の感染によって生育抑制や収量の低下が起こります。その対策としては化学農薬による防除が行われているところですが、近年は、コナジラミ類が化学農薬に対する薬剤抵抗性を獲得していると危惧されており、少しでも化学農薬に頼らない防除方法が求められています。そこで、三好地区環境負荷低減技術普及推進協議会が主体となり、「みどりの食料システム戦略」の実現に向けた取り組みを行うこととし、施設野菜の夏秋トマト栽培における物理的防除を活用した化学農薬の低減技術検証と普及を目的としたグリーンな農業体系への転換を推進します。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	栽培マニュアルに記載のとおり												
技術名	栽培マニュアルに記載のとおり												

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5	目標R10	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	2.1	▶ 2.1	
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	0.66	▶ 2.1	
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	0.66	▶ 2.1	
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	0.66	▶ 2.1	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 粘着ロールを活用したIPM	化学農薬の使用回数の削減 薬剤抵抗性の発生リスク軽減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	15	▶ 12	化学使用成分数
環境 省力	農薬散布時間の削減（時間）	45h/10a	▶ 39h/10a	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

多くの生産者に技術を取り入れてもらうために産地戦略やグリーンな栽培マニュアルを活用し、地域への普及に向けた情報発信を行っていく。また、関係機関及び生産者間での技術の情報交換を密にし、今後も継続して取り組みができるように低コストでより効果的な方法についても検討を進めていく。

関係者の役割

関係者名	(有) ミコモフレック	徳島県農業協同組合	三好市・東みよし町	徳島県（三好農業支援センター）
役割	技術導入と普及	技術普及と指導	技術導入支援	技術普及と指導と検証

その他